

2008年9月25日

森林認証および植林木合板の輸入取扱い拡大について

住友林業株式会社（社長：矢野 龍 本社；東京都千代田区、以下、住友林業）は、昨年発表した「木材調達理念・方針」のなかで定めている、持続可能な森林経営からの木材の調達促進や植林木の利用を促進させる一環として、将来の輸入合板ビジネスの礎を築くためにも、環境配慮製品である認証材・植林木合板取扱いを増やしていく上で、まず森林認証合板の輸入拡大をおこなうことを決めましたので、お知らせします。

記

■ 森林認証・植林木合板の取扱拡大の事由

昨今、様々な安心安全神話が崩壊していくなかで、“食”を中心としたトレサビリティへの注目が高まり、また本年わが国で開催された環境問題を主題とした洞爺湖サミットや地球温暖化問題等により、環境意識の高い消費者が増加しています。

当社の国内における事業領域である住関連マーケットにおいても、住宅メーカーやDIYなど消費者ニーズへの対応として環境配慮型の商品への切り替えが進んでいます。

その様な状況下、当社の取り扱う輸入合板も、インドネシア国のアラス（ALAS）グループが製造する※FSC認証合板を軸としながら、森林認証と植林木の合板輸入を3年後には数量で約半数に拡大させていくことを目標に決めました。

アラスグループは、持続可能な木材製品の提供を目標に、20年以上前から植林を手掛け、また森林認証の取得にも先行的に取組んできた環境意識の高い企業です。山林部門で所有山林のFSC認証を取得したのち、関連会社の合板工場でも昨年12月に※FSC認証のCoC（Chain of Custody）を取得しFSC認証合板の生産が可能となっています。

さらにアラスグループの合板工場では、バイオマス発電によってクリーンなエネルギーを使用した森林認証合板を生産していることから、将来的にカーボンオフセットが見込める製品です。

日本市場におけるFSC認証材合板の認知度はまだまだ低いですが、当社は木材建材商社NO.1の業容を誇ることから、その社会的責任を鑑み、クリーンで持続可能な環境価値の高い製品の取扱いに関する理解促進を市場に対してはかってまいります。

※ FSC(森林管理協議会：Forest Stewardship Council)

本部はドイツのボンにあり、環境団体、林業者、木材取引企業、先住民団体、地域林業組合、林産物認証機関などの代表者により、1993年に設立された非営利、非政府組織。環境保全の観点から、適切で、社会の利益にかなない、経済的にも持続可能な森林管理の推進を目的としている。FSCの認証制度には、森林管理認証とCoC認証の2種類の認証がある。

※ CoC認証（加工・流通過程の管理の認証：Chain of Custody）

認証された森林から生産された木材・木材製品が、加工・流通過程において、非認証林から生産された製品と混ざらないよう区別し、適切に管理されていることを条件に、生産者や販売業者を認証する制度。

<本件に関するお問合せは、下記をお願いいたします。>

住友林業株式会社

コーポレート・コミュニケーション室 佐野

TEL：03-3214-2270

以上